江戸川公園界隈散策

栗林君の計画で２０１１年９月２５日に都内散策が行われた。

今回は江戸川橋公園から護国寺付近の計画で参加者は栗林君他、丸田兄弟と奥様、高橋君、野村さん及び島崎さん、そして井田である。

神田上水

ひとしきりの暑さを忘れたような涼しい秋の好天日和に文京区の江戸川公園に集合する。

江戸川公園は神田川のほとりで、ソメイヨシノの桜並木が続いている。桜の時分はさぞきれいだろう。神田川のこの辺りを江戸時代は御留川と云われたそうである。

遊歩道は連休のせいか、ご夫妻で散歩している人が多い。また、川の水も透明に澄んでいて、黒い鯉が泳いでいるのが見える。こんなに神田川が正直きれいだと思っていなかった。

亀の甲羅干し

石の上には亀が秋の陽射しを楽しむように日向ぼっこをしている。実にのどかな風景である。

江戸時代には井頭公園を水源として、神田川は江戸の町に引水したということである。

大洗堰

その神田上水取り入れ口として大洗堰があり、水はここで二分され、余水は江戸川へ、他は水戸屋敷に給水し、神田橋門外で更に二筋に分かれ、一つは内堀内の大名屋敷へ、他は神田、日本橋方面へ給水したという。水質・水量悪化に伴い昭和８年に取水口は塞がれたが上水道として最も古い神田上水の取水口として大洗櫃は復元されているが当時の規模ではない。

江戸時代の埋め立て地である深川方面は井戸を掘っても塩を含んだ水しか出ず、水の業者が水を舟で買いに来て深川方面に売って歩いたということは時代小説によく出てくる話だ。

遊歩道沿いには上水道関口水門の守護神が祀られている、ひなびた水神社もある。

江戸川公園の一角に松尾芭蕉の俳句の風を慕う俳人が芭蕉を偲んで建てた関口芭蕉庵がある。芭蕉は神田川改修工事に参加し、神田上水の安楽寺に居住したと云われ、死後、跡

地に龍隠庵、さらに関口芭蕉庵が建ったようである。建物は被災し、現在の建物は戦後建築したものである。

芭蕉庵には、ささやかではあるが湧水が崖下から流れ、ひょうたん池を中心とした荒れた庭園があり、庭園には今は高層ビルしか見えないが、当時は見えたのであろう俳人の富士山を眺めた歌碑がある。また、上部には１７２６年の芭蕉の３３回忌に建てられた芭蕉堂がある。大分痛んでいる。

竹林が往時を偲んでいるかのように見える。

関口芭蕉庵正門

芭蕉庵

竹林

やがて細川氏の下屋敷の庭園のある新江戸川公園に到着する。ここは回遊式泉水庭園で手入れがいきとどいたちょっとした庭園である。こんな都心にも静かな場所があるかと思うほどである。やはり桜の時期と紅葉の時期、雪吊りのある冬季が良いらしい。

残念ながら細川氏の財宝？のある永青文庫は閉館で観ることができなかった。

新江戸川公園細川邸下屋敷

新江戸川公園を高台に上ると文京区の運動公園がある。大人は野球に、ちびっこ達がフットサルに興じ、父兄が我が子を応援している様が微笑ましい。まさしくスポーツの秋である。

目白通りに出て丹下健三が設計したカトリック教の東京カテドラル聖マリア聖堂の横を通り、ルルド洞に行く。

信者でないとわからないが、ルルドの洞はフランスの南西部にあるピレネー山脈の山麓にあるカトリックの聖地の洞を模して作成し

東京カテドラル聖マリア聖堂

たもので、１８５８年に貧しい少女が洞窟で聖母マリアを見たことから始まり洞窟を掘ったところ病気を治すという泉が湧きだしたという伝説から巡礼者が集まったという。日本の洞も聖母マリアの像が祀ってあり、敬虔な信者がお祈りをしている。

ルルドの洞

フリーマーケット

目白通りでは東北福島支援向けのフリーマーケットを開いている。

やがて、椿山荘を横目で見ながら独協学園の横道を抜け、鉄砲坂を通り、護国寺に到着する。

護国寺は徳川綱吉の母「桂昌院」の発願で１６８１年に創建されたお寺で、真言宗豊山派の総本山であり、本堂は１６９７年に建立されている。

護国寺本堂

「不老」の掲額の下で集合写真を撮り、不老の思いを新たにする。こうして散策できるうちが華だと思う。

護国寺はお彼岸の関係もあり、お参りする人達も多く賑わっている。護国寺は明治維新の元勲の墓所が多い。たまたま護国神社の関係者と思われる方が、山県有朋、三条実美、大隈重信の元勲の墓所を開けてくれ、説明を聞くことができた。ラッキーという感じである。

不老の額

でも、新江戸川公園でもあったけれどもここでも石灯篭が先の東北地方太平洋沖地震で崩壊していた。灯篭は地震に弱い。

山県有朋の墓

三条実美の墓

大隈重信の墓

昼食予定の時間も過ぎ、タクシーで栗林君なじみの鬼子母神参道入口前の料理屋で昼食をとった後、一応、解散する。

折角ここまで来たのだからと思い、殆んど全員が三大鬼子母神の一つである雑司ヶ谷の鬼子母神をお参りする。

鬼子母神は「恐れ入谷の鬼子母神」や朝顔市で入谷の方が有名だが、またとない機会である。

鬼子母神参道の樹齢４００年というケヤキの大木が４本残っているケヤキ並木を通るが、あの大木の下にいる民家は大変だとつい心配になる。

やがて、法明寺鬼子母神に到着する。境内には樹齢６００年という銀杏があり、１６６６年安芸藩主浅野光成夫人から寄進を受けたという本堂がある。

けやき並木

鬼子母神はもともと子育ての神様であるが、子育ても終わっている
年齢だから孫のいる人は孫の成長を祈り参拝するのであろう。

鬼子母神本堂

鬼子母神から池袋へ。

池袋に近付くと段々人が混み合い、高齢者集団には馴染みにくい雰囲気になってくる。

心地よい疲労感を感じつつ、健康な再会を約束して解散する。

(井田記)